

【発表要旨】

オセアニアの貿易風帯には、西のカロリン諸島から東のツアモツ諸島にかけて環礁と呼ばれる島々が点在する。環礁はその美しい景観とは裏腹に、人間の生存にとって非常に厳しい環境である。しかし、降雨に恵まれた環礁ではピット農耕によってサトイモ科のミズズイキ類 (*Cyrtosperma* spp.) やタロイモ (*Colocasia* spp.) といった根茎類を栽培することができる(Luomala 1974; 近森 1996)。食用植物の乏しい環礁において、根茎類は食糧として重要であった。しかし現在、多くの環礁社会でピット耕地の放棄が進んでいることが報告され、その要因として自然環境の変動や社会経済状況の変化が指摘されている(風間 2002; Watters and Banibati 1984: 52; Laurence 1983: 66)。

現地観察に基づき、マーシャル諸島マジュロ環礁においても耕地の「荒廃」が進んでいることを定量的に確認できた。しかし、他の環礁で議論された要因をそのまま当てはめることはできない。マジュロ環礁は世界経済システムの「最周辺の周辺」(風間 2003:33)ではなく、アメリカ合衆国や日本の大使館が設置されるほどの都市化した環礁だからだ。こうしたマジュロの持つ特異性に注目し、同環礁内で最大面積を測るローラ州島のフィールドワークと文献資料の情報にもとづいて、ピット耕地「荒廃」の要因として以下の3つの可能性を指摘することができた。

- ①現金を得る必要性から、換金作物や賃労働に従事し、そのため根茎類の栽培に投下する労働時間が制約されている可能性がある。
- ②風間 (2002:110) が記述したような「放棄された」状態のピットはマジュロにも多数観察できるが、聴取調査の中でこうしたピットも使用しているとの主張があり、一概に「放棄」と判断できない。むしろ、輸入食料品への依存が高まる中で、一見すると「荒廃」状態の耕地でも根茎類の自家消費的な生産は十分まかなえている可能性がある。
- ③土地用益権の継承は今なお母系を通して行われ、伝統的土地区分 (wato) に住むリネージで保持される。しかし、一方で社会状況は流動的で、1912年から1988年にかけて人口動態は大きく変化している。マーシャル諸島の他の環礁やマジュロの都市部からローラへの人口流入が生じていると同時に、そこに住む島民が流出している現状がある。土地用益権継承システムを維持したまま人口動態が変化しているのである。最近のローラには、ピット耕地を耕したくても、用益権を持ってない住民が増えていると推定できる。

【卒業論文目次】

I.オセアニア環礁のピット耕地研究	II-5.土地区分制度
I-1.オセアニア環礁の自然環境・地理	II-6.人口動態
I-2.ピット農耕	III.ローラ州島のピット耕地に関する現状調査
I-3.放棄の研究史	III-1.ローラ州島の景観
I-4.放棄の要因	III-2.ピットの分布
I-5.本研究の目的	III-3.ピットの使用状況
II.マーシャル諸島マジュロ環礁の諸特徴	III-4.個人の使用状況
II-1.位置	IV.ピット耕地の現景観を生み出す歴史的要因
II-2.地形 (面積・地下堆積物・幅)	IV-1.換金作物への歴史的依存
II-3.年間降雨量	IV-2.ピット耕地の利用方法の変化
II-4.社会的にも重要なタロ	IV-3.土地用益権の獲得メカニズムからみた耕地荒廃

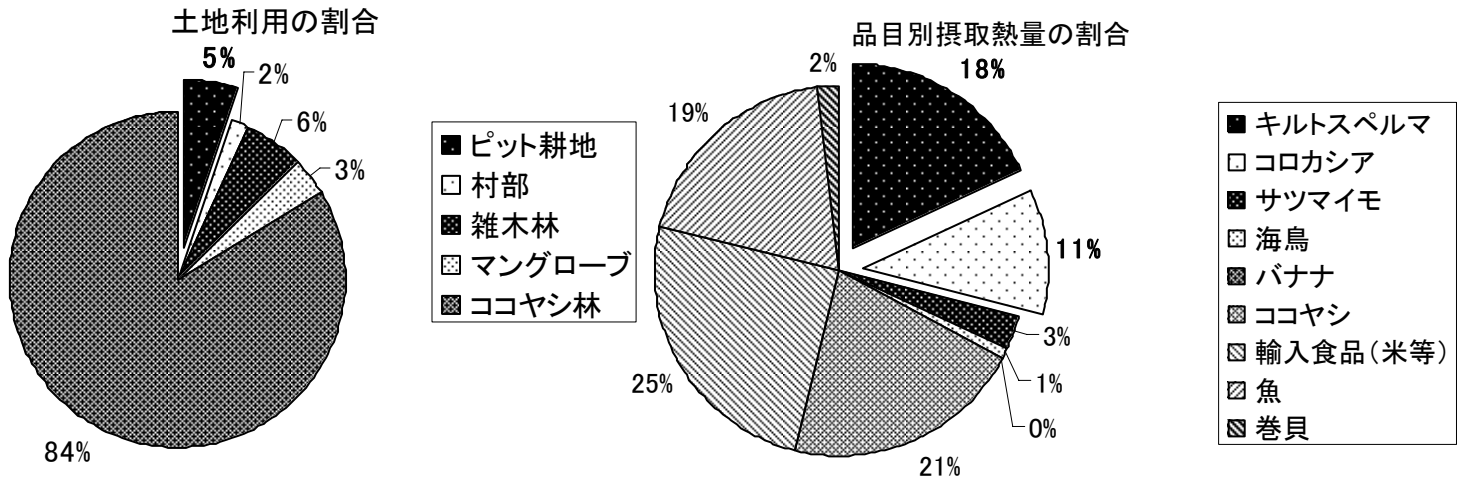


図1 土地利用の割合と品目別摂取熱量の割合 (Bayliss-smith 1990)

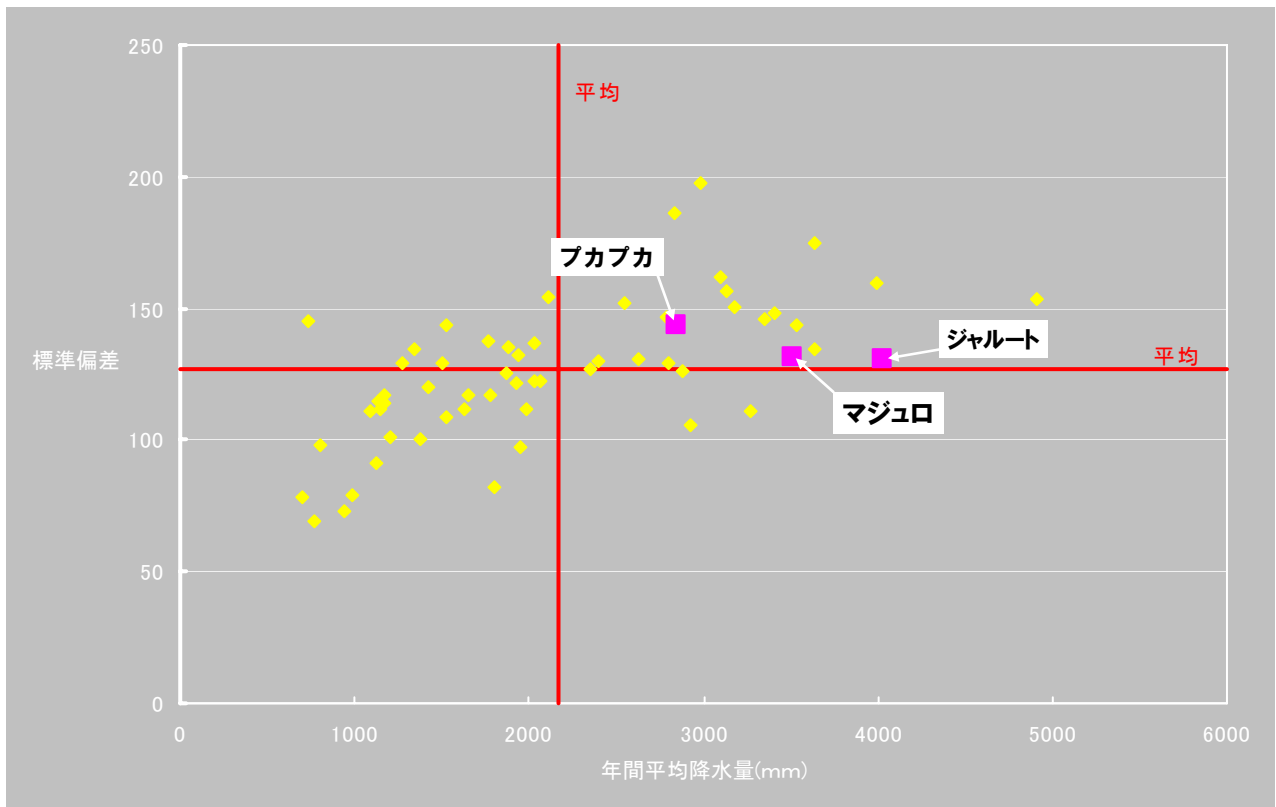


図2 オセアニア環礁における降水量のバリエーション

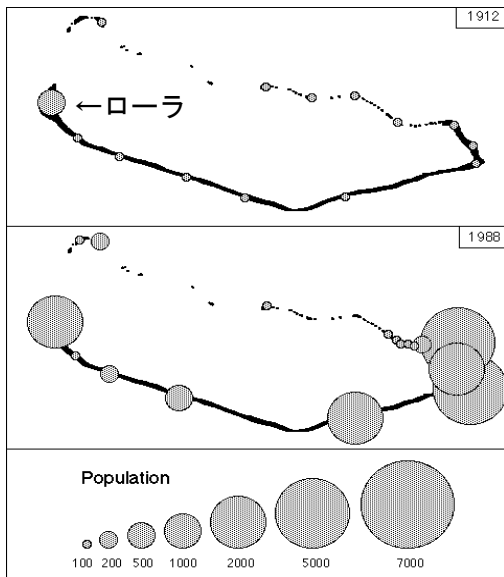


表1 Cf.タビテウエアサウスの人口動態(Geddes 1983)

年	人口 (人)
1973	1092
1990	860
2006	672

図3(左)マジュロの人口動態(Spennemann 1992)

Population Trends of Majuro, 1858-1999.

Population

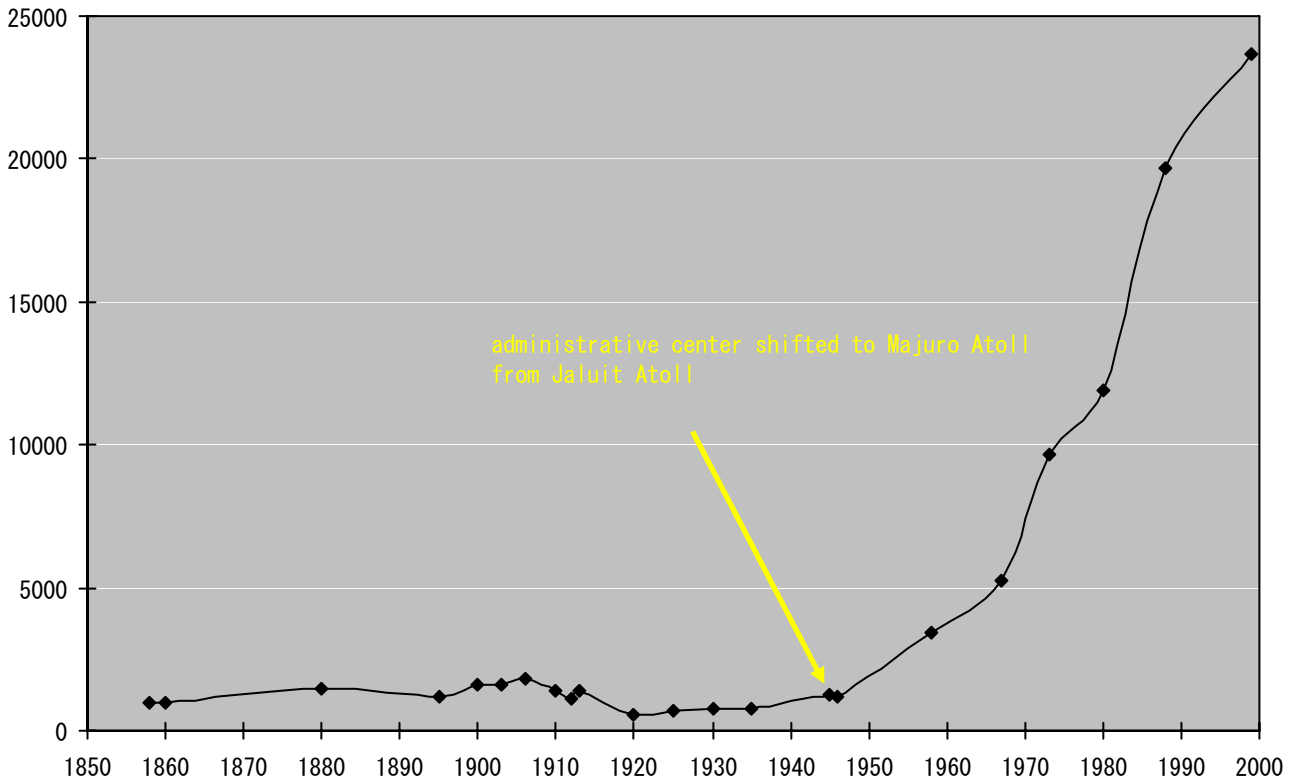


図4 マジュロの人口動態(Spennemann 1992)

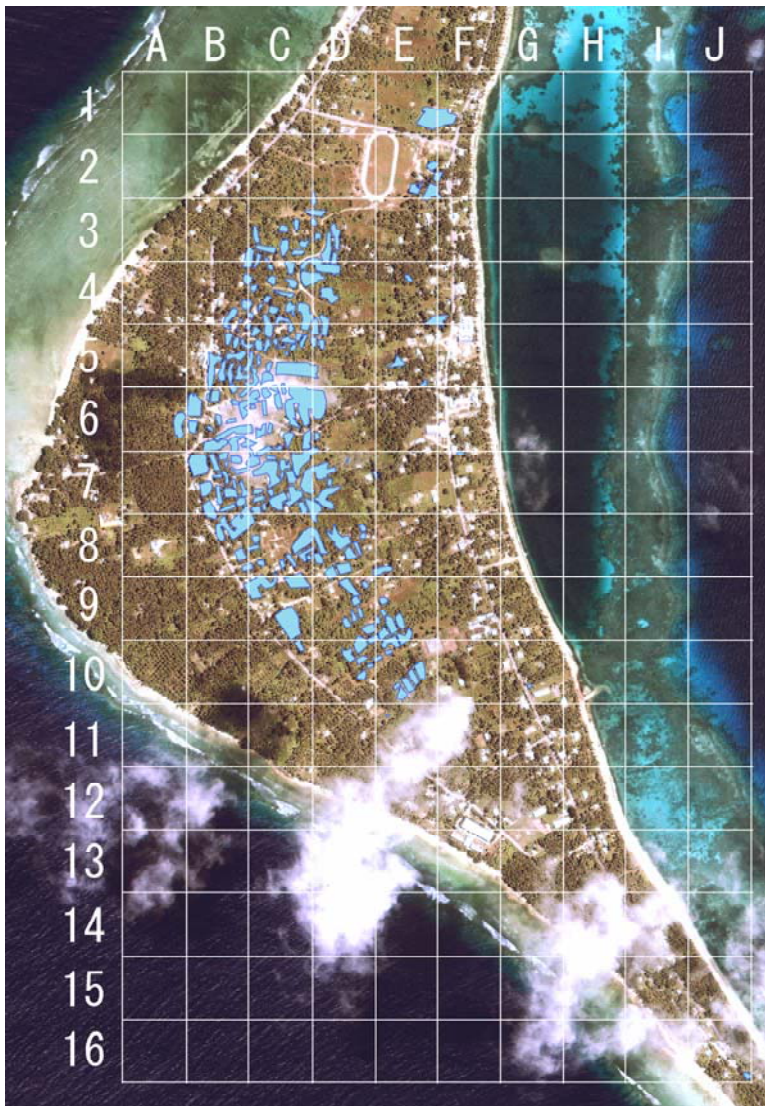
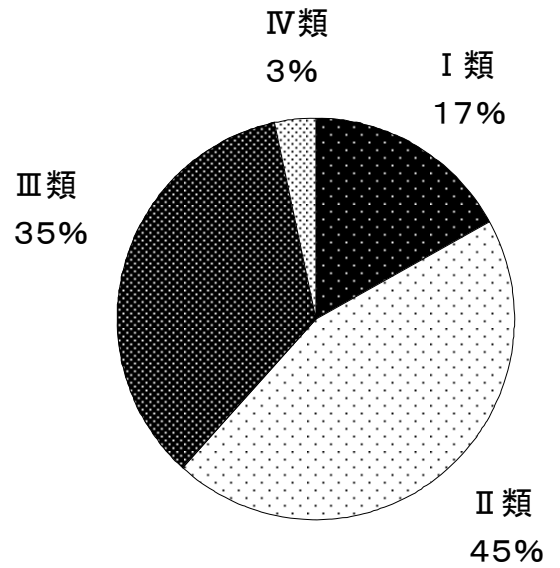


図5 ピット耕地の分布



	根茎類 有り	根茎類 無し
競合樹種 有り	II類	III類
競合樹種 無し	I類	IV類

図6 ピット耕地状態別割合と分類基準表

数量(トン)

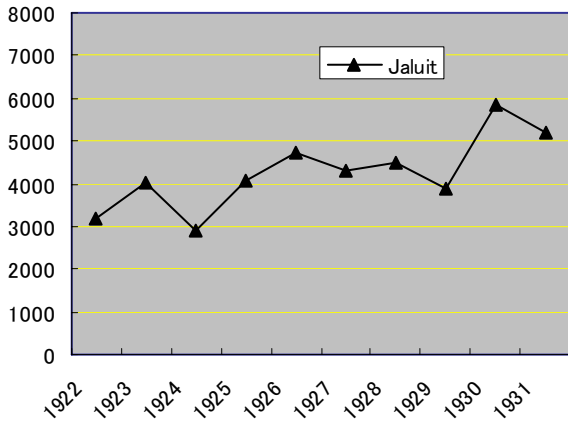


図7 コブラ輸出量の推移

(1000 US\$)

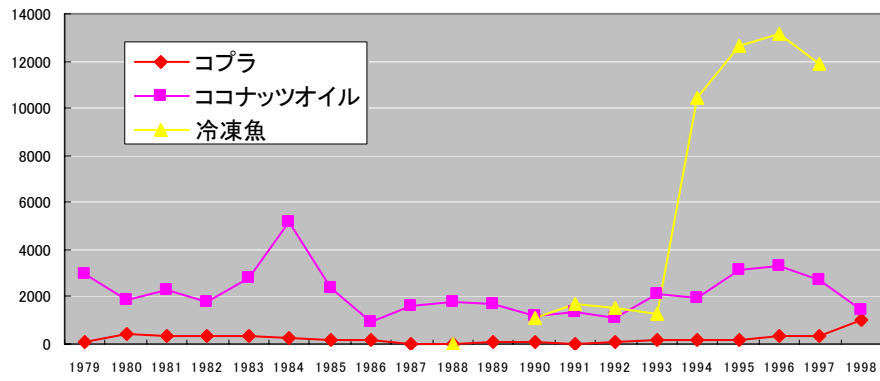
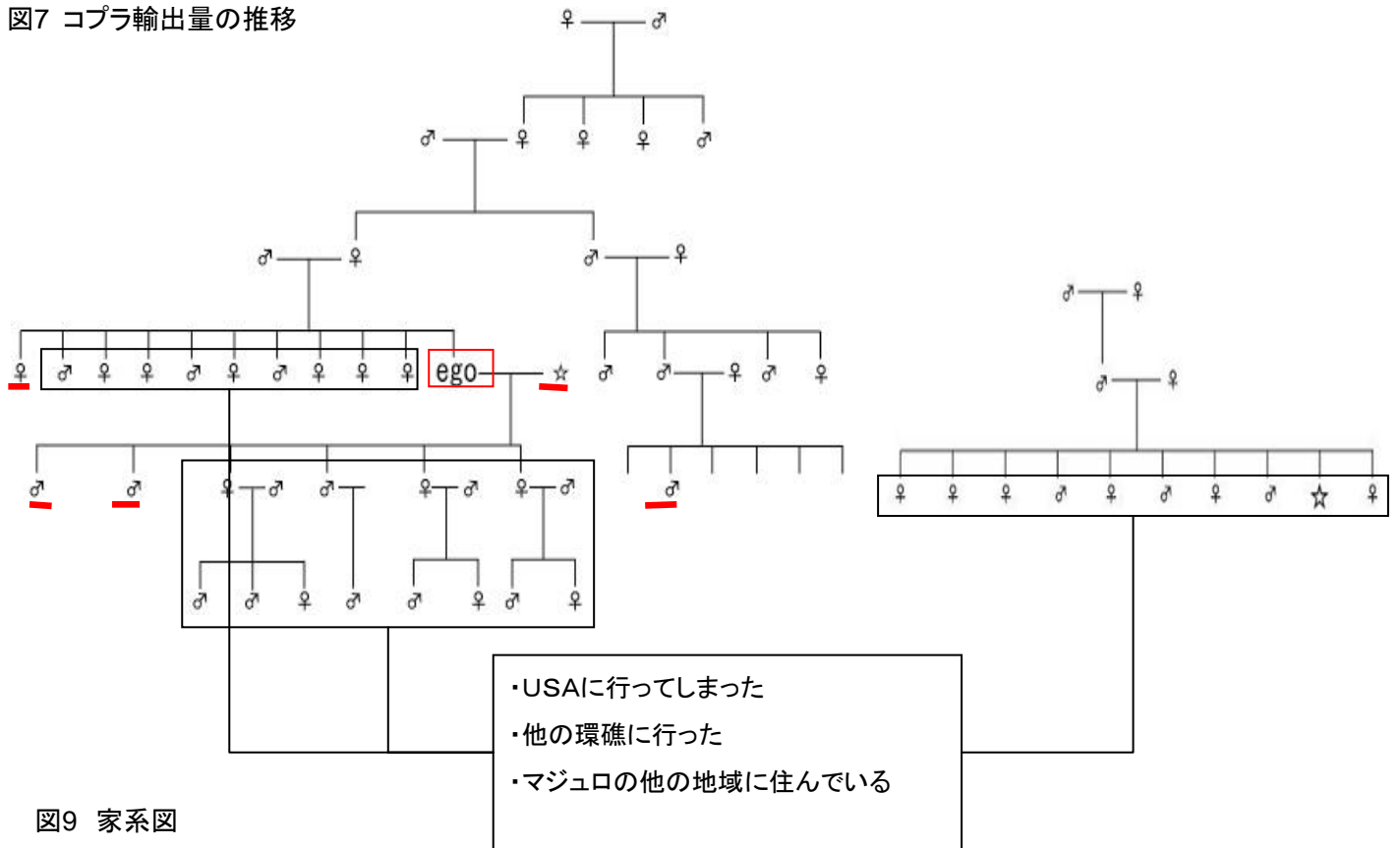


図8 マジュロにおける商品別輸出額



【主要参考文献】

- ・風間計博 2002「珊瑚島住民によるスワンプトロ栽培への執着—キリバス南部環礁における掘削田の放棄と維持」『エコソフィア』10:101-120
- ・近森 正 1996「環礁のピット農耕」劉茂源(編)『國分直一博士米寿記念論文集：ヒト・モノ・コトバの人類学』pp.331-345.慶友社
- ・南洋庁 2000 復刻版 委任統治地域南洋群島調査資料：第一輯 / [南洋廳編] pp.280-304 龍溪書舎
- ・山口 徹 2004「住みよい環礁州島の条件—マーシャル諸島マジュロ環礁の先史居住—」『時空を超えた対話—三田の考古学—』pp.17-22
- ・Geddes, W. H. 1983, *Tabiteuea North, Atoll Economy: Social Change in Kiribati and Tuvalu*, No.2 canberra: Australian National University. influence: *British and German colonial policy in the Pacific Islands and the indigenous response* / edited by Hermann J. Hiery and John M. Mackenziepp.231-255
- ・Spennemann, Dirk H.R. 1992 Historic Demography of Majuro Atoll, Republic of the Marshall Islands, *Jornal of the Pacific Society*, No.54,Vol.15,No1
- ・Spoehr A.1949 , *Majuro: A Village in the Marshall Islands*, *Fieldiana Anthropology* Vol. 39, Chicago Natural History Museum pp.172-176
- ・Tobin,J.E. Land Tenure in the Marshall Islands *Atoll Research Bulletin* No.11
- ・T. Yamaguchi, 2005, *Excavation of Pit-Agriculture Landscape on Majuro Atoll, Marshall Islands, and Its Implications.*, *Global Environmental Research* Vol. 9 No.1. : pp.27-36